
天白区の活動事例



天白区

平針南学区連合自治会 駐車委員会



【平針南学区】

■世帯数：2,401 世帯

■人 口：5,976 人

■面 積：1,130k²m

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 県営平針住宅内の路上駐車問題の解決のため、県から団地棟間の土地を借り受け、全住民で測量・整備を行い、駐車場を確保した。その結果、路上駐車 of 激減を実現したが、全住戸分の駐車場確保とはならず、その後も民有地及び市・県有地を借り有料駐車場（85 区画）を整備した。
- ・ 駐車委員会の活動は公安委員会からも認められ、車庫証明の発行や駐車場内の秩序維持・住環境の向上など住民とともに進めている。
- ・ 棟代表委員による「路上駐車一掃パトロール」を年 3 回 20 年間継続して実施している。県営平針住宅だけでなく、分譲住宅区域を含む学区全域をまわることもある。20 年間の参加者数は延べ約 2,000 人。

【アピールポイント】

自分の住む町を自らの手で安心安全な住みやすい所にするという意気込みと活動の継続。

2 きっかけ、背景

県営平針住宅では、高度経済成長による自動車の普及により、自動車を保有する世帯が増え、路上駐車による緊急車両の通行の妨げや交通事故の誘因など、住民の日常生活に深刻な問題となっていた。そうした中で昭和 55 年に平針住宅住民により平針住宅駐車委員会が組織され、駐車場の整備をはじめた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

1年間の運営メンバーは約100人。県営平針住宅の各棟より代表委員を49名選出し、委員長以下理事9人で組織

(2) 他団体との協力

青色回転灯車を使用してのパトロール活動

4 実施のスケジュール

毎月1回 定例理事会開催（状況に応じ臨時理事会開催）

毎年3月 定期総会と随時棟代表委員会

年3回 代表委員（駐車委員）と理事により区域内路上駐車一掃パトロール開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の意識が高まり、路上駐車が減少するなど、住環境の向上につながっている。

(2) 苦労した点

当初は、住民の活動への理解を得ることに苦労したが、最近は慣れにより活動の本来の主旨が薄まっているところがある。

(3) 今後の課題・展望

理事の高齢化が進んでおり、活動の継続と担い手の世代交代が今後の課題。

(4) メッセージ・アドバイス

継続は力です。



平針学区ジュニアスポーツクラブ



【平針学区】

■世帯数：4,585 世帯

■人 □：10,944 人

■面 積：1.676km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「平針ジュニアスポーツクラブ」は、子どものスポーツ活動の充実を図り、心と身体を健やかに育てるとともに、スポーツを通して大人と子どもがふれあい、学区内住民相互の新たな連帯を促進するとともに、学区の一体感や活力を醸成することを目的としている。
- ・小学4年生以上を対象に小学校を通じて募集し、平針小学校の運動場において年 15 回の練習を行う。種目は軟式テニス。延べ参加者数は約 450 人。

【住民への PR 方法】

小学校を通じて募集

【アピールポイント】

子どものスポーツ活動の充実と心身の健全育成を図るとともに地域のボランティア精神を育成している。

2 きっかけ、背景

子どもの体力低下やコミュニケーション不足などを解消するために、子どもにスポーツに親しむ機会を提供し、心と身体の健やかな育成を図るために活動を始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

子ども会、スポーツ推進委員、学区内のテニス愛好者 計約10人

(2) 他団体との協力

平針学区青少年育成協議会、子ども会

(3) 運営協力

スポーツ推進委員のみならず、学区のテニス愛好者もボランティア活動として協力していただいている。

4 実施のスケジュール

毎年5月 小学校を通じて会員の募集



6月～ 午前中の2時間半、15回の練習会を
翌年3月 開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

子ども会、スポーツ推進委員、会員の保護者等の交流の場となっており、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。会員数を30名前後確保して行くことにより運営がスムーズに進む。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題である。OB会員の積極的な参加を得られるよう、努力して行きたい。

(4) メッセージ・アドバイス

時代の波に流されることなく、長期にわたって取組める活動を見据えて実施して行きたい。

納涼夏祭り



【平針北学区】

■世帯数：3,879 世帯

■人 口：7,545 人

■面 積：0.782 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・平針北コミュニティセンターおよび郷之島公園を会場に、「納涼夏祭り」を開催。2日間の延べ参加者数は約 2,000 人。
- ・学区内の各種団体で実行委員会を組織して、催し内容の検討・屋台出店計画・協賛金の依頼等を打ち合わせる。
- ・青少年育成協議会と連携し、青少年育成標語（23 年度募集テーマ：「家族の和」「美しい町」）を募集し、優秀作品を祭りの当日、櫓上で表彰、作品はうちわに印刷し、啓発活動をしている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

屋台出店を業者に頼まず、PTA、婦人会等学区内の各団体にて行っている。青少年育成協議会との連携で標語を募集し優秀作品をうちわに印刷して配布する。盆踊りだけでなく、抽選会・じゃんけんゲーム・餅投げなど参加者全員参加の催しを行っている。

2 きっかけ、背景

平針北学区は平針・原学区から分割して設立された学区であるとともに、他地域からの転入者が比較的多いことから、住民のふれあい・連帯を図ることを主目的に始めた。学区設立以来毎年開催し、外部業者ではなく学区内の諸団体による屋台出店で来場者は2千人を超え、学区のメイン行事となっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員による夏祭り実行委員会を設立 計約 50 人

(2) 他団体との協力

平針中学校(ソーラン節)、平針婦人会(踊り支援)、平針北学童保育クラブ(トーチ演技)、病院他 3 企業(駐車・駐輪場提供)、平針北小学校(太鼓・テント借用)、めばえ保育園(車・テント借用)、新聞店(テント借用・PR)

(3) 運営協力

小学校・PTA に標語募集を依頼。実行委員を各種団体から幅広く人選。

4 実施のスケジュール

H23 年 6 月

- ・夏祭り実行委員会を設立（学区連協各団体から選抜）
- ・青少年育成標語を募集

- ・第 1 回実行委員会を開催 概要説明、各団体出店品説明

7 月 第 2 回実行委員会を開催
日程細案、チラシ配付・掲示、協賛金依頼等の詳細な打合せ

当日 開催後、反省会



5 成果と課題

(1) 成果・効果

年々参加者が増加し、住民間の交流が広がるとともに各団体内の連帯感が深まった。

(2) 苦労した点

出店団体との連絡調整。協賛金の減少により催し内容の検討。

(3) 今後の課題・展望

住民間のふれあい、連帯の場面設定を多くする。学区民が協力する手作り夏祭りを継続する。

(4) メッセージ・アドバイス

青少年育成活動と祭りを融合させた事により、住民の青少年育成意識の高揚を図っている。外部の業者には頼らず、各種団体で屋台を出店することで、子どもたちが安心して買い物でき、家族的な雰囲気となっている。

災害に強いまちづくり



【原学区】

■世帯数：5,654 世帯

■人 口：12,850 人

■面 積：1.174 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

原住宅集会所および下原公園において天白土木事務所による樋門の仕組みや土のうの作り方、積み方についての講習会を開催した。参加者数は約 120 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

2 きっかけ、背景

平成 12 年 9 月の東海豪雨により原二丁目地内で浸水した。その際樋門の開閉が問題となっていた。天白土木事務所から樋門の説明を受けた後、自分たちでできることは何か、自助・共助・公助の中でただ待つのではなく、情報を共有することで、減災につなげようという機運が高まったことがきっかけ。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員 計約 20 人

(2) 他団体との協力

天白土木事務所、原消防団



4 実施のスケジュール

H24 年5月 学区内の関係団体と打合せ（第1回）
天白土木事務所と打合せ



6月 学区内の関係団体と打合せ（第2回）



7月 学区内にチラシの配布



7月 災害につよいまちづくり事業の開催

5 成果と課題

成果・効果

防災に対する住民の意識が高まったほか、講習会に参加した住民間の交流が深まった。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

小学校PTA役員と委員
計約70人

(2) 他団体との協力

区政協力委員、民生委員児童委員、
消防団員、女性団体・女性部、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、社会福祉協議会、みなづき会（点字ボランティアグループ）、地域内企業 計約100人

(3) 運営協力

学区連絡協議会で地域の方々に依頼している。

4 実施のスケジュール

H23年 6月 年度の計画を立てる

7月 各団体に協力依頼をする

9月 PTA 内での準備開始

H24年 1月 PTA と学区の合同打ち合わせ会

1月28日 植田ふれあいデー開催

2月6日 反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

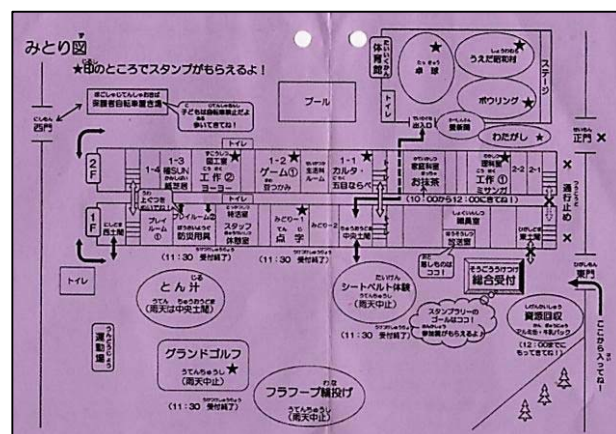
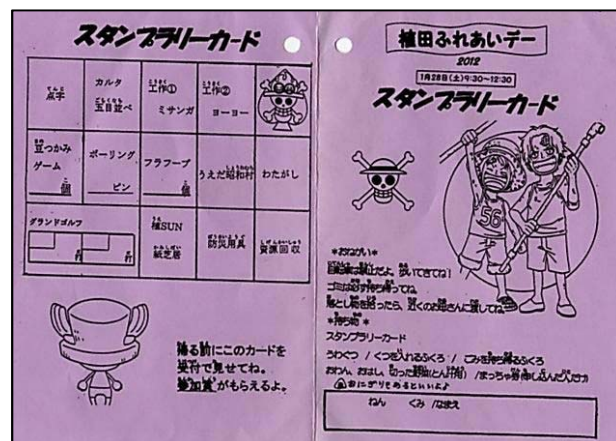
地域の方と子ども、保護者の交流が深まった。

(2) 苦労した点

児童数の減少により、PTA 委員も減少し、少ない人数で多くのブースを運営しなければならなかった。

(3) 今後の課題・展望

ブースの内容を再検討し、より魅力ある行事にしていきたい。



青少年の健全育成事業(ぐるっとウォーキング)



【植田南学区】

■世帯数：5,314 世帯

■人 口：10,598 人

■面 積：1.101 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 植田南小学校を起点として、学区内の7カ所を回るウォークラリー「ぐるっとウォーキング」を開催。参加者数は約 150 人。
- ・ 参加者は未就学児から成人までとし、小学2年生までは原則保護者同伴とする。自分たちの住む街を調査し、歴史を訪ね景観を知る。また、天白川と緑道を観察する事も目的とする。各ポイント地点でスタンプを集め、ゴールにて参加賞と引き換える。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

親子で参加すること、各町内会へ均等に募集すること。

2 きっかけ、背景

子どもたちが自分の育ったふるさとを認識し、大人と協同して街の検索を行う事を目標にした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、南っ子育成クラブ
計約 30 人

(2) 他団体との協力

南っ子連絡会

(3) 運営協力

青少年活動の世話役として、PTA
など若い人に呼びかけている。

4 実施のスケジュール

会議開催
H24 年 1 月 22 日
タイトル、開催日程、参加規定を決定し、募集要項についてチラシの作成を行う

役割分担決定
2 月 1 日
交通整理・7つのポイント担当
コース・ポイントの点検

2 月 12 日
交通整理各ポイントの作業依頼を確認

2 月 18 日 ウォークラリーの開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 地域の大人と子どもの交流作業により、お互いの信頼関係が深まった。

(2) 苦労した点

- 参加者の確保のため各町内会に均等に呼びかけを行った。
- 他の事業に対する保護者の関心が薄く、活動の担い手を得るのに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- 資源回収の収益により活動資金を確保し、活動を継続していきたい。
- 若い世代が青少年育成に関心を持ち、幅広く地域活動へ参加してくれることを望んでいる。



植田みなみ《ぐるっと*ウォーキング》
主催：植田南学区 南っ子クラブ

「私たちの街(植田みなみ)は、歴史・文化・教育・産業・自然・環境が一歩も二歩も進化した街です。まだまだ新しい魅力溢れる「私たちの街」をぐるっとウォーキングしてみませんか？」

開催日程
日時：平成 24 年 2 月 18 日(土) 9:00 植田南小学校校庭集合 (雨天：19 日に順延)
内容：植田南小学校を起点とし、学区内 7 か所のポイントを通るウォーラリー
各ポイント地点でスタンプを集め、ゴールにて参加賞と引き換え。

① 参加者受付
② 学区長挨拶
③ ウォーラリーの説明
④ スタート 9:30 → ゴール 11:30
⑤ 解散 12:00
参加者：南っ子クラブ・成人
1グループ2名以上を希望します。
兄弟姉妹、クラスのお友達、ご近所、お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。
但し、原則として2年生までは保護者同伴でお願いします。

持ち物：水筒、タオル
申込先：各町内会、トワイライト、コミュニティセンター(TEL:803-2655 FAX:803-2670)
申込締切日 2月11日(土)

ウォーラリー申込用紙

	氏 名	お子様の学年又は年齢	備 考
1			
2			
3			
4			
5			
6			

※保護者の方は氏名のみご記入ください。

植田北学区運動会



【植田北学区】

■世帯数：2,652 世帯

■人 口：6,800 人

■面 積：1.221 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 植田北小学校を会場に「植田北学区運動会」を開催。参加者数は約 800 人。
- ・ 各町内会から選出された委員で構成される運動会実行委員会で具体的な内容を検討・決定するが、この内容案は各町内会が1年ごとに持ち回りで担当する準備委員会で行うため、実質的には町内会が実施責任を負う形となっている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

幼児から高齢者まで全学区民が参加できる。学区としての一体感が醸成され、町内会の地域的な絆が深まる。

2 きっかけ、背景

植田北学区は平成3年に発足した新興住宅地であり、当時は地域としての絆がまだ弱く、学区としての一体感に乏しかった。その解決を願って計画されたのが、学区民全てが参加できる運動会である。町内対抗形式を取り、町内ごとの結束を高める狙いもあった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 30 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会の参加団体全て

4 実施のスケジュール

毎年
6月 準備委員会の立ち上げ



7月 準備委員会（数回）・第1回実行委員会



8月 準備委員会（数回）・第2回実行委員会



9月 準備委員会（数回）・第3回実行委員会



10月 準備委員会（数回）・全体会議（委員・係）
運動会実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加し、住民間の交流に対する意識の高まりにつながっている。
- ・学区創立以来続けられ、学区伝統行事となって、地域の絆を深める中心的な役割を果たしている。

(2) 苦労した点

- ・住民の理解を得ることと活動の担い手不足に苦労している。
- ・各町内会の世帯数の差が大きく出場者数を公平に割り振る事が難しい。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続が課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・運動会に保育園児から高齢者まで、全ての学区民が参加できるようにしている。



植田東学区夏祭り



【植田東学区】

■世帯数：3,265 世帯

■人 口：8,528 人

■面 積：0.798k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 植田東小学校を会場に「植田東学区夏祭り」を開催。参加者数は約 800 人。
- ・ 各町内会や各種団体を中心とした自主運営とし、各町内会はビアガーデンや縁日風の模擬店（焼きそば、やきとり、フランクフルト、みたらし団子等）を担当する。
- ・ 子ども会と小学校 PTA は子ども遊びコーナーを運営する。
- ・ その他、生演奏や学区事業紹介コーナーなど、多彩なコーナーを設置する。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布・回覧

【アピールポイント】

小規模ではあるが、業者に頼らず学区の各団体が中心となり、自主的な運営を行っているところ。

2 きっかけ、背景

平成 21 年度に植田東学区が創立され、初年度は大運動会を開催した。翌年はもう一つ、学区内で取り組める事業を検討することになり、子どもから大人まで参加できる夏祭りを実施することにした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会 計約 80 人

(2) 他団体との協力

各町内会、区政協力委員、小中学校 PTA、子ども会、女性会、更生保護女性会、民生委員など

(3) 運営協力

地域活動への参加を目的として植田東小学校おやじの会にも 1 コーナー（串かつ）を担当してもらっている。

4 実施のスケジュール

H22 年
5 月 青年部で夏祭りの企画・検討



6 月 学区連絡協議会で実施内容説明



7 月 夏祭りチラシ配布



8 月 夏祭り開催



H23 年
6 月 前年度を受けて改善案の検討・説明



毎年 次年度以降も同様に開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流が深まった。
- 学区の役員が力を合わせて夏祭りを成功する事ができ、一体感が生まれてきた。

(2) 苦労した点

- 他団体との協力体制を作ることに苦労した。最初は本当にできるのか不安だったが、実施後はみんな満足そうだった。

(3) 今後の課題・展望

- 継続して実施する事が大切なため、後継者の育成にも努めていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- マンネリ化を防止するために毎年少しずつ、工夫・改善を行う。
- 小学校近隣へ配慮し、午後 3～7 時までの開催としている。



大坪学区夏まつり



【大坪学区】

■世帯数：5,142 世帯

■人 口：10,575 人

■面 積：2.416km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・大坪小学校校庭および大坪公園において、「大坪学区夏まつり」を開催。参加者数は約 500 人。
- ・小学校の校庭で午後 2 時から 5 時まで「ミニSL」を走らせ、子どもたちに大人気だった。
- ・夏まつりは学区連絡協議会が担当し、責任を持って運営している。区政協力委員は開催準備、女性会は盆おどり、子ども会は夜店を担当し、民生委員は全体のお手伝い、消防団は交通整理などを担当する。

【住民へのPR方法】

町内回覧、各種会議での周知、掲示板への掲示

【アピールポイント】

学区連絡協議会の担当者が準備しているので、地域の方に喜んでいただければ良いと思っている。

2 きっかけ、背景

学区の夏まつりは地域住民のふれあいの場として開催している。また、学区連絡協議会の各団体が協力し合い、責任を持ってまつりに取り組むことで、学区の他の活動も活性化することを目的としている。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会 計約 145 人

4 実施のスケジュール

H24 年5月 26 日 学区夏まつり 初打合せ



6月8日 必要備品の買出し



2回目の打合せ
6月30日 午後、盆おどりの練習会（女性会は4月～7月の毎週火曜日盆踊りの練習）



7月7日 夏まつり開催（「ミニSL」、夜店など）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

今年度は小学校の工事のため、少し早い日程で夏まつりを開催したが、参加者が多かった。

(2) 苦労した点

前年度の開催における反省点を活かし、改善して次年度開催する。

(3) 今後の課題・展望

夏まつりは地域の住民のふれあいの場となるため、今後も継続して開催したい。



八事東学区盆踊り大会



【八事東学区】

■世帯数：5,769 世帯

■人 口：11,625 人

■面 積：1.473 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 八事東小学校を会場に「八事東学区盆踊り大会」を開催。2 日間の延べ参加者数は約 2,000 人。
- ・ 実行委員会を設置し、大会の企画運営を行う。
- ・ 盆踊り大会の広報は各町内会へ開催を周知するほか、当日は宣伝カーによる周知を行う。
- ・ 当日の模擬店の売り上げは天白区社会福祉協議会へ寄付している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、地元商店に小中学生の作品を掲示して周知する。

【アピールポイント】

実行委員会を設置することで、多数の団体の意見が反映されるとともに、多くの協力が得られる。

2 きっかけ、背景

古くは町内会ごとに行われていた盆踊りを、学区民の親睦融和を一層深めるため、学区でまとまって毎年開催するようになって約 20 年が経過した。平成 24 年度は「ふれあいのある明るい街づくり」をスローガンに掲げ、多数の参加を呼びかけた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、地域福祉推進協議会 計約 100 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員会、婦人会、連合子ども協議会、消防団、福祉推進協議会

4 実施のスケジュール

H24 年
6月 ・実行委員会の設置



7月 ・町内会へ開催周知（回覧）
・宣伝カーの申請（天白警察署）



8月 ・会場の設営
・盆踊り大会開催
・会場の撤収・片付け

5 成果と課題

(1) 成果・効果

毎年、同月同日に開催し、学区内住民の多数の参加を得ており、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足している。

(3) 今後の課題・展望

若い世代のスタッフが不足しており、活動を継続するために担い手の世代交代が課題である。



安心・安全で快適に暮らせるまちづくり



【表山学区】

■世帯数：5,799 世帯

■人 口：11,783 人

■面 積：1.182 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

安心・安全で快適に暮らせるまちづくりのために各種事業を実施。延べ参加者は約 2,170 人。実施場所は表山小学校、表山コミュニティセンター、学区内の公園など。

- ・ 17 町内会と 4 ブロックに防災器具庫を設置した。
- ・ 3 か所の避難所に各種の備蓄品を配備した。
- ・ 防災訓練、避難所宿泊等のソフト事業を実施。
- ・ 防犯カメラの設置、街路灯の増設を行った。
- ・ ボランティア養成講座や健康体操教室を開催し、子育て支援活動の活性化を進めた。
- ・ 主要道路に花壇を設置し、住民有志が管理した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、学区連絡協議会での呼びかけ

【アピールポイント】

初回の「地域委員会」のモデル事業に応募して採択され、予算の裏付けを得て、所期の各事業を達成できたこと。

2 きっかけ、背景

巨大地震等の大災害の発生時にも「死者ゼロ、負傷者極小」にするため、住民の共助による救急体制の整備とともに、避難所の環境改善、住民の防災意識

向上が必要であった。さらに悪質街頭犯罪の撲滅、交通安全の確保並びに福祉・子育て・健康および環境・美化関連の充実に対する住民の要望が強かった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、アクティブ表山サポーターズ 計約 40 人

(2) 他団体との協力

天白区役所、消防署、土木事務所、社会福祉協議会など

(3) 運営協力

今後は学区町内会連合会を運営主体として、学区内から広く人材の参画を求めて防災・防犯・福祉・保健・環境等の部会を構成し、積極的に活動する体制を整える。

4 実施のスケジュール

H22 年 3 月 地域委員会 15 回、作業部会 13
～23 年 3 月 回開催



H22 年 7 月 防災器具庫設置、避難所備蓄品配
～24 年 3 月 備 訓練に活用
学区・ブロック・町内会防災訓練
実施



H22 年 11 月 防災講演・講習会 非常食試食会
～24 年 3 月 開催



H23 年 2 月 防犯カメラ設置、防犯講演会開催



H24 年 3 月 花壇設置、維持
～24 年 6 月

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 防災器具庫、避難所備蓄品等を整備できた。
- ・ 住民の防犯意識、連帯感が高まったほか、防犯体制が強化され、安心感が増した。
- ・ 子育て支援活動がさらに活性化した。
- ・ まちの美化が進み、潤いが生まれた。

(2) 苦労した点

- ・ 一連の活動を高く評価する声がある反面、そうでない意見もあったため、繰り返し説明に努め協力を求めた。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 一定の成果を得た諸活動を今後も継続し、レベルアップすることが必要である。そのための人材、資金の確保が重い課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 諸活動の目的、内容等に関する説明を繰り返し行い、住民の理解を深め、学区全体が連帯感を持って活動する気運を醸成することが重要。

地域の自主防犯活動



【天白学区】

■世帯数：5,978 世帯

■人 口：14,536 人

■面 積：2.010k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 地域の自主防犯活動として、学区全体を対象とした青色回転灯車による「青色パトロール」の実施と学区の特定地域を対象とした徒歩による地域防犯パトロールを実施。
- ・ 延べ参加者数は約 170 人。

【住民への PR 方法】

天白学区連絡協議会の各団体から参加者を募集した。

【アピールポイント】

特定地域を対象とした徒歩による地域パトロールと全学区内を対象とした車による青色パトロールの組合せ。

2 きっかけ、背景

地域の高齢化が進み、道路事情等が変化する中、住民との情報共有、意識啓発の必要性を感じ、安心・安全なまちづくり活動の一環として活動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、女性会、子ども会、老人クラブ、島田神社氏子総代会
計約 60 人

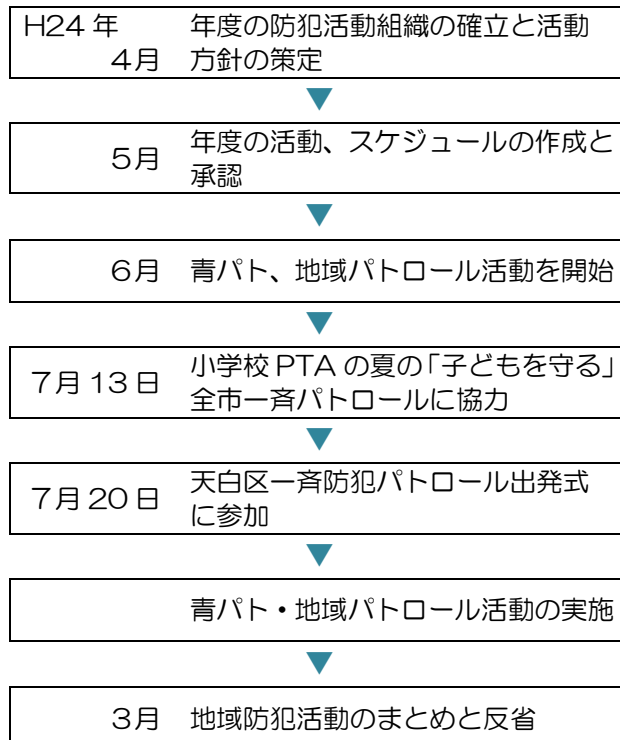
(2) 他団体との協力

区政協力委員、民生委員児童委員、女性会、子ども会、島田神社氏子総代会、老人会、ボランティア

(3) 運営協力

天白学区連絡協議会の参加組織による協力を得ている。

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・パトロールの参加者が増加し、住民間の交流が深まった。
- ・区政協力委員の改選により活動メンバーが大幅に交代したが新メンバー相互の交流が始まった。

(2) 苦労した点

- ・区政協力委員の改選のたびに、中核メンバーが交代するので体制の確立にエネルギーが必要である。
- ・他団体との協力体制の維持に苦労している。

(3) 今後の課題・展望

- ・地域の犯罪ハザードマップの作成などパトロールを効果的に行う工夫が必要である。
- ・運営費を捻出し、活動を継続することが課題である。



親子ねん土教室の開催



【山根学区】

■世帯数：3,548 世帯

■人 口：8,913 人

■面 積：1.706 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 山根コミュニティセンターにて「親子ねん土教室」を年に3～4回開催。延べ参加者数は約 90 人。
- ・ 粘土で作品をつくるという過程の中で親子の結びつきを深めることを目的としている。
- ・ コミセン運営委員会で企画運営している。

【住民へのPR 方法】

コミセンだよりの各戸配布、子ども会を通じて参加の呼びかけ

【アピールポイント】

平成 23 年度よりスタートしたが、学区の子どもと親に確実に定着しており、参加者の増加や開催回数の増加につながっている。

2 きっかけ、背景

子どもと親との関係の希薄化および近隣の人間関係の希薄化に対し、親子による参加でねん土作品づくりを体験する事により、子ども・青少年の健全育成や住民間の交流を深めようと事業を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

コミセン運営委員会、子ども会、ねん土工作の指導者 計約8人

(2) 運営協力

子ども会に呼びかけ、親子の参加を得ている。

4 実施のスケジュール

H24年5月 コミセン運営委員会で開催日を決定
コミセンだよりで日程とタイトルを広報

7月 コミセンだよりで詳細を広報

7月22日 親子ねん土教室の開催
8月19日

12月 親子ねん土教室の開催（クリスマスにちなんだものを作成予定）



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が回を重ねるとともに増加している。
- ・担当役員の他に子ども会の保護者の中にサポートしてくれる人が数人出てきた。

(2) 苦労した点

- ・活動の担い手が不足しているため、保護者の一部に指導者の手伝いを経験してもらい、将来の担い手になってもらうことに留意してきた。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続と担い手の世代交代が課題である。



しまだ学区秋まつり



【しまだ学区】

■世帯数：3,477 世帯

■人 口：7,946 人

■面 積：0.698km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ しまだ小学校の全施設を会場に、「しまだ学区秋まつり」を開催。参加者数は約 1,700 人。
- ・ 幼児から高齢者まであらゆる世代が楽しめるよう、様々な催しが企画される。
 - ① 中央ステージ：小学生による吹奏楽や中学生のコーラス発表、民踊、フラダンスなどの地域のサークルの活動発表、その他太鼓演奏、よさこいソーランダンス、大抽選会
 - ② 校庭：子ども会による遊びの広場（輪投げ、サッカーゲーム）や模擬店・バザー、あおぞら市場、フリーマーケット、敬老昼食会
 - ③ 体育館：健康測定・健康相談、ともだち文庫（松ぼっくり工作、おもちゃ遊び、絵本展示コーナー）、伝承遊びの体験コーナー、サークル作品の展示発表など

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

平成 13 年秋、少子高齢化により、運動会に代わる行事として、御前場自治会が中心となりスタートした。地域住民のコミュニケーションの場として学区全体に広がり、平成 24 年度は学区主催のイベントとして、開催することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 70 人

(2) 他団体との協力

学童保育など

4 実施のスケジュール

8月上旬 企画立案

8月下旬 実行委員会立上げ 予算検討

9月上旬 外部出演者の依頼・決定

9月下旬 備品調達

開催前日 会場設営・装飾

開催当日
(10/21) 秋まつり開催

10月下旬 決算・総括



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者が増加し、住民交流についての意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- 高齢者が気軽に参加することができ、敬老会食には通常の3倍の参加がある。

(2) 苦労した点

- 活動の担い手が不足していることに苦労している。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続と、活動資金の確保が今後の課題である。

顔の見えるふれあい活動



【高坂学区】

■世帯数：1,749 世帯

■人 □：3,913 人

■面 積：0.349k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

自主防災事業の一環として「顔の見えるふれあい活動」を実施。戸建住宅の町内会、集合住宅の自治会ごとにリーダーを取り決め、活動の進捗状況を把握するよう会合を重ねている。

① 「防災ズキン」の配布

高齢者（初回は 80 歳以上、第 2 回は 75～79 歳）を対象に手作りの防災ズキンを配付することをきっかけにして、高齢者の居住状況や生活環境について情報を収集した。

② お助け活動

③ あたたかい声かけ活動

【住民への PR 方法】

口コミによる人間関係を築くことが大切

【アピールポイント】

「向こう三軒両隣」の精神による助け合いのふれあい活動に、「私にも何かお手伝いできる事はありませんか」と自ら積極的に参加申込があったこと。

2 きっかけ、背景

住民がお互いのことを知るには、実際に顔を合わせることが一番との考えから、学区の地域活動は、顔の見えるふれあい活動でなければと考えて活動している。相手を知ることによって新たな認識の軸が広がることを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、老人
クラブ 計約 30 人

(2) 他団体との協力

天白区社会福祉協議会

(3) 運営協力

学区が「顔の見えるふれあい活動」
に取り組む意義を理解してもらえる
人材に協力を得た。

4 実施のスケジュール

H22 年 2月 「防災ズキン」の製作・配付を決定

11 月 「広報高坂」に配布の主旨を掲載
第1回目の配付開始(11 月末に完了)

H23 年 2月 第1回配付の活動報告会の実施
「お助け活動」の実施要領を決定

3月 「広報高坂」にて第2回配付の案内と
「お助け活動」の主旨を掲載
第2回目の配付実施(4月中旬に完了)

9月 お助け活動の経過報告と問題点の検証

H24 年 1月以降 「あたたかい声かけ活動」を推進

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 戸建住宅による町内会と集合住宅の自治会とに分けて取り組み、それぞれにリーダーを設けて活動としたことで住民の意識が高まるとともに住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- この事業の主旨をいかに理解して参加・協力を得られるかがポイントだった。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続と担い手の世代交代が今後の課題。
- 活動の仲間づくりのためにリーダーの統括力と参加者とのより良い人間関係を保つ事が大切。

(4) メッセージ・アドバイス

- 福祉活動は学区によって異なると思うが、それぞれの状況に応じて対応する事が大切。



“交通安全スローガン”の募集活動



【相生学区】

■世帯数：1,762 世帯

■人 口：3,790 人

■面 積：0.495 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「交通安全スローガン」を小学生から募集。年間の応募は約 160 人。
- ・年4回の交通安全週間のポスターに募集したスローガンから1～2作品を採用し、掲示板や回覧板、コミセン祭りなどで掲示する。ポスターは交通推進委員が作成している。
- ・相生学区交通安全推進委員会にて、各学年2作品にまで選考し、相生小学校体育館にて表彰式を行う。
- ・集まったものの中から、名古屋市が実施する交通安全スローガンにも応募を行う。

【住民へのPR方法】

回覧板、掲示板への掲示、コミュニティセンター(コミセン祭り)

【アピールポイント】

交通安全の啓発と児童への認識の向上。

2 きっかけ、背景

小学生の交通安全意識の啓発を主目的として、平成 17 年度より活動を開始した。初年度は広く地域住民全般を対象に交通安全スローガンを募集したが、次年度より小学生を対象とし、平成 17 年以降、毎年継続開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

学区交通推進委員を中心に、相生小学校から支援を受けている。

区政協力委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ
計約 20 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員をはじめとして、各地域団体と相生小学校から交通安全推進委員として参画。

4 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民意識の高まりにつながっている。
- ・スローガンの内容については、児童が高学年になるほど、作成能力が向上している。

(2) 今後の課題・展望

- ・担い手の世代交代と活動資金の確保が今後の課題となっている。
- ・現在以上にスローガンを住民の身近におき、目に入るようにしたい。



のなみ元気まつり



【野並学区】

■世帯数：5,195 世帯

■人 口：11,635 人

■面 積：2.376k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 野並公園野球場を会場に、毎年8月に「のなみ元気まつり」を開催。2日間の延べ参加者数は約 3,000 人。
- ・ 盆踊り大会を中心とし、和太鼓演奏やヒップホップダンスなどのステージアトラクション、27 町内会の団体・グループによる模擬店出店、小学生・中学生による作品展示など、子どもから高齢者まで皆が楽しんで参加できるよう企画する。
- ・ 実行委員会を設置し、元気まつの企画立案、各世帯への運営協力費の依頼、企業ごとに協賛の説明と依頼、出演団体の選定と依頼、模擬店出店は、参加者(団体・グループ)への説明と打合せを重ねながら合意を基に進める。

【住民へのPR方法】

チラシ(案内・依頼等)の回覧、小中学生の作品掲示、2 日間のプログラムと協賛企業の広告をパンフレットにして学区の各世帯に配布

【アピールポイント】

地域社会の活性化と親睦融和を柱に、野並学区全体(27 町内会・小中学校・商店街・企業)が一体となり、汗を流して取り組んでいる。

2 きっかけ、背景

平成 12 年9月の東海豪雨で大きな被害を受けた野並学区の住民が、水害から丸3年が経過したのを契機に、学区民みんなで盆踊りや音楽を楽しみ、失いかけた地域の「絆」を再び築こうと、平成 15 年8月に「第1回のなみ元気まつり」を開催した。以来毎年継続開催 している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、レディース野並、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 175 人

(2) 他団体との協力

野並小学校、南天白中学校、野並ソフトボール部等

(3) 運営協力

小中学生を対象にまつりのポスター作品を募集。提出者に粗品を贈呈。

4 実施のスケジュール

毎年6月 ～7月	・27 町内会へ開催通知（回覧） ・企業等への協賛依頼、各世帯への運営費協力依頼 ・模擬店出店団体募集、アトラクション出演依頼 ・小中学校へポスター作品募集について協力依頼
-------------	--

8月	・会場の設営 ・のなみ元気まつり開催 ・会場の撤収、片付け
----	---



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民間の交流が深まり、東海豪雨で大きな被害を受け、忘れかけていた絆を取り戻すことができた。多くの人が関わることで、活動の担い手も増加している。

(2) 苦労した点

- ・他団体との協力体制の構築に苦労したが、まつりの主催を実行委員会とすることで、地域団体相互の協力が得られた。

(3) 今後の課題・展望

- ・若い世代の企画への参画が少なく、担い手の世代交代が今後の課題である。
- ・活動資金の確保も今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・まつりの主催を運営メンバーで実行委員会を構成することにより、多くの団体・商店街・企業とも協働できる。